



楽

音楽の本来の魅力を語る場所



【オルテンシアで行われた吹奏楽祭のステージ】

川村先生に1つ気になったことを質問してみた。パフォーマンスや演出はどうやって考えるのか？

「生徒たちがみんな考えるんですよ。私はほとんど関わりません。演奏する曲すら知らないですし……」

生徒たちが演奏した曲は「K-POP」と「AKB48」のメドレー。名前ぐらいは聞いたことがあるが、曲となると……。先生の気持ち分かるような気がする。

彼女たちのステージは、ひたむきな演奏の中に、音楽を奏でる楽しさ・喜びが同居していた。演奏後の拍手を、コンクールの時とは違った気持ちで受けていたに違いない。それは、音楽が持つ本来の力に対しての拍手だからだ。

コンクールが終わり、彼女たちの次の目標は、9月に行われる吹奏楽祭に向かっていった。西北五つがる地区の小・中・高校が集い、競うのではなく音楽を楽しむイベントだ。今年は、東日本大震災の発生もあり、「復興のハーモニー」と銘打った音楽で被災地を元気づけるイベントとして開催された。

この吹奏楽祭の特徴は、順位や賞がないということ。そして、各団体が趣向を凝らしたパフォーマンスを行ったりするという点で、決定的にコンクールとは違う。コンクールが音楽の「音」にフォーカスした大会であるのに対し、吹奏楽祭は音楽の「楽」を重視した大会であるようだ。



【社会福祉大会で】



吹奏楽部といえば、なんといってもさまざまな地域イベントで行われる華やかな演奏が光る。楽器を手にした彼女たちは、その音色とハーモニーで観客を魅了し、地域の人たちから大きな賞賛を受けている。

イベントによって曲目も変え、観客に楽しんでもらおうと、自分たちがプロデュースする演出にも力を入れる。ある意味、与えられた課題をこなすコンクールよりも、自ら考えることが必要なイベントでの演奏の方が、ハードルは高い。

そんなイベントでの演奏に対して、川村先生は「吹奏楽は、音楽。やっぱり人に聞いてもらってナンボですよ。聞いてもらえる場面が多ければ多いほど、子どもたちは伸びていく。これからも出演依頼はぜひお受けしたい」と意欲を見せる。

彼女たちの演奏は、統率がとれ、よく考えられた演出もあり、最後には「ありがとうございました！」と全員大きな声であいさつ。演奏だけではなく、楽しませてくれたお礼として、観客は大きな拍手を贈っている。そして、たびたびアンコールがかかることから、吹奏楽部に対する評価の高さがうかがえる。

そんな観客の拍手に、生徒たちは「涙が出るくらいうれしい」といい、川村先生もうれしさをこう話す。

「演奏している側というのは、どういう風に観客へ聞こえているのか正直分からない。拍手やアンコールをしてもらえるのは、実際に聞いている観客の皆さんの評価なわけで、そういう意味でも本当にうれしいと思いますね」

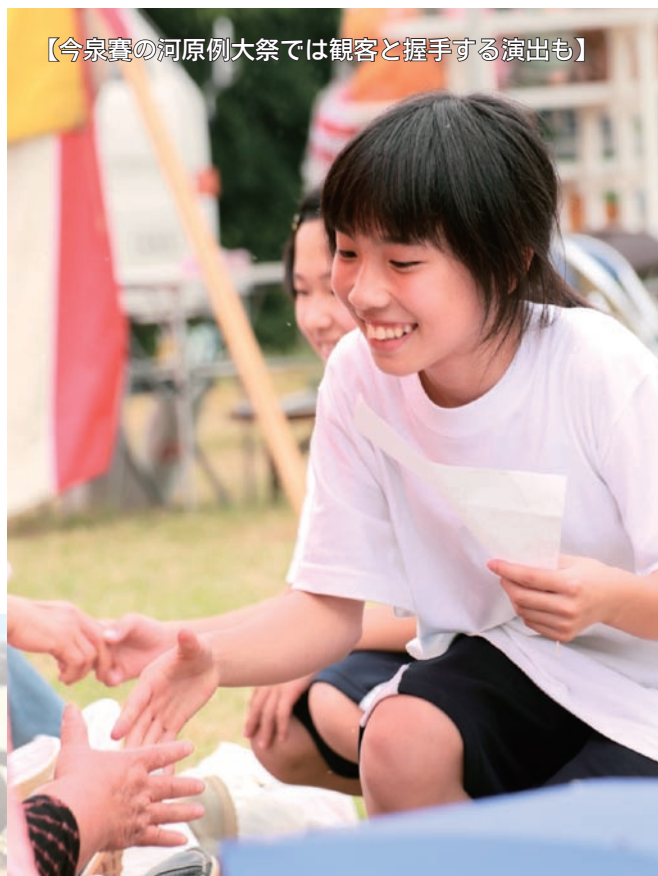
彼女たちにとって、楽器を演奏することは何よりも大好きなこと。真剣に演奏し、その喜びを感じているからこそ、観客の心をつかむのだ。



華

うれしい地域の舞台

【今泉の河原例大祭では観客と握手する演出も】



【1年の締めくくり なかどまり町展祭での演奏】



町民祭での演奏が終わり、3年生は部活動を去る季節がやってきた。演奏を終えた部員たちは、中学校1階のいつもの練習場所に集まり、お菓子和ジュースで乾杯していた。甘いものが出てきているとあって、乾杯後の彼女たちは黄色い声で騒いでいた。やはりそこは女子生徒なんだなあと思う。

場も和んできた頃、卒部する3年生たちのあいさつが始まった。「1人30秒以内で」と言っていたのだが、9人の3年生たちは誰一人30秒では終わらない。いや、終われなかったのだろう。1つ1つ、つむいで出した言葉には、つらかったこと、楽しかったこと、いろんな語り尽くせぬ思い出がつづられていた。そして、最後には下級生に向けて



思

引退の季節

「がんばれ」というメッセージを添えていた。

と、ここまでは3年生のためのセレモニーだったが、このあとにびっくり。行われたのは、なんと校舎を使った「かくれんぼ」大会。鬼は川村先生のみ。33人对鬼1人。ちよっとひどくないか。

だいぶ時間がかかるのかなと思っていたが、先生は「だいたい隠れているところは分かる」という。追いかけてみると、あれよあれよという間に見つかっていく。ちなみに、かくれんぼ大会は2回目の開催だとか。何か、家族のような雰囲気を感じる出来ごとだった。

吹奏楽部での3年間は、この先長い人生を歩む彼女たちにとって、死ぬまで忘れることのない大切な時間なのだろう。



【こんな感じでインタビュー】



— どうして吹奏楽部に入ろうと思った？

部活動紹介がかったよかった。中学校入ったら音楽やろう！と思っていった（やっぱりそうだね）

— 1年生はコンクールまで日が短かったと思うけど、大変だったんじゃない？

何で叱られているのか分からなかったが、先輩たちが本当に優しくてがんばれた。おかげで、3か月で何とかなるレベルまで行けた（いい先輩たちだね）

— 部員は女子だけだけど、男子部員ほしいと思う？

ほしい／いらない／（賛否両論だ）

雑用させる。力仕事、楽になりそう（やっぱりそういうことか）

体力勝負の楽器で、男子



【徐々に彼女たちのペースに…】

の威力發揮しそう（こういう点で男子も必要なんだね）

— 川村先生をどう思う？

大好き。愛してる（オイオイ） いいにおいがする（???）

毒舌。気分屋。指導力がある。いつもジャージ。緑のジャージすてき。おしゃれな男性のように感じる（ホントいろんな評価があるな）

感想いっぱいありすぎ（これが本当のところかも）

— 吹奏楽は楽しい？

サイコーに楽しい。ヤバイくらい。

それも川村先生のおかげ。先生が来てから、吹奏楽が楽しくなった（川村先生の影響は大きいんだね）



【最後はこんな感じ。遊ばれてますね…】

— 吹奏楽は他の部員と音を合わせることも大事だけど、何か工夫している？

みんな仲良く。気持ちを1つに。これが演奏を合わせるコツ（技術じゃなく気持ちが一番大事なんだ）

— 間近に迫ったアンサンブルコンテストの目標は？

金賞！全国へ行く！（威勢がいいね）

全国超える、ワールドワイド（夢はでかくだ）

— 最後に一言！

中里中の吹奏楽部は、とてもかわいい女の子がいっぱいいるし、めちゃくちゃかっこいい指揮者の先生がいるので、ぜひ入ってください（おませなある3年生のコメントでした）

Interview

川村先生 × 部員

インタビュー



— 部活の指導方針は？

部活動なので、礼儀正しく、というのが第一。あいさつ、返事をきちっとできるように。それから、集団の中の一員としての自覚・責任。吹奏楽部では、一人に一役を必ず持たせるようにしています。

— コンクールは銅賞でしたが、他校の先生から「中里中やるな」という評判をいただいたそうですね。

「大編成は初出場だけど、ギャフンと言わせてやるぞ！ 人数じゃねえんだよ。出てくる音で勝負するんだよ！」という気持ちでした。一泡吹かせてやろう、みたいな。

確かに、ほかの大きな学校に劣る部分はあると思いますが、うちの演奏レベルは、勝負にならない、ってほどじゃないと思いますよ。— 女子だけの部員で困ったりしませんか？

その点は、副顧問の福沢先生にホント助けられてます。子どもたちの悩みや相談など、福沢先生がいなかったらどうなっていたことか。ほかに、引率や会計、部員の面倒などを一手に引き受けてもらっているの、私は安心して音楽の指導に専念できます。

— 吹奏楽の魅力とは？

「1人ではできないことを、みんなであれば可能にできる」ことです。可能性が広がるし、部活動なので、その人が輝くチャンスが生まれる。

— 最後に町民の皆さんへどうぞ。

地域の皆さんへは「いつもあたたかい応援をありがとうございます」と言いたい。これからも、皆さんの期待に添えるよう練習を積み重ねます。演奏依頼いつでもお待ちしています。

小学生の皆さんには「楽器を演奏できることは一生の特技です」と言いたい。中学校で何か楽器を1つ演奏してみませんか？ 大変なこともあります、引退するときは、必ずやってよかったと思える部活です。皆さんの入部待ってます。

先生、それから部員のみなさん。アンサンブルコンテスト金賞目指して、がんばってください。